"自主創造"のための

Learning Guide



2014 日本大学FDガイドブック

日本大学での学びの基本がわかる本（保存版）

〝自主創造〞のための

Learning Guide 2014

日本大学FDガイドブック

日本大学での学びの基本がわかる本（保存版）

自ら学びを通して成長する

聞き手◎商学部４年・小川文孝さん，歯学部６年・佐藤怜さん

「自分が授業をつくる」という気概を持って授業に臨む

佐藤さん　日本大学は「自主創造」を教育理念に掲げています。どのような人材を育てようとしているのでしょうか。

大塚学長　今日の社会は，不確定な要因によって世界の情勢が激変する可能性があり，予測が困難な状況です。そうした時代にあっても，社会に積極的にかかわり，日本の，さらには世界の発展に貢献できる人材の養成を目指しています。新入生の皆さんには，本学での学びを通して，自ら考え，自ら学び，自ら道を開く精神を培い，たくましく成長することを期待しています。

小川さん　私は，「自主創造」を２つの意味に捉えています。一つは自分で新しい何かをつくること，もう一つは自分で自分の道を築いていくことです。

大塚学長　大学での学びでは，それら両方が重要になるでしょう。大学は，高校までに蓄えた知識を生かし，自らの関心や目的に沿って自主的に学修を進める場です。本学には，失敗を恐れずにチャレンジする精神や物事を変える斬新な発想を育む，自由な学びの場があります。そうした環境を最大限に生かして，専門性を深め，新たな何かを創造してほしいと思います。

小川さん　大学での学修は，単位取得の考え方やＧＰＡの仕組みなど，高校までの学びの形態と大きく違い，新入生のころは戸惑うこともありました。

大塚学長　学生が学修の目的を理解し，主体的に学ぶことを支援するために，本書を作りました。また，クラス担任やオフィスアワーなど，本学には学生一人ひとりの学修を支援する様々な制度が整っています。まだ，目標がはっきり決まっていないとしても，「何を学びたいか」を自分なりに考え，積極的に学ぶ姿勢を身に付けてください。

佐藤さん　平成 25 年の２月，教職員と学生が一緒によりよい授業の在り方を考えるＦＤ座談会に参加しました。そこで感じたのは，先生方の授業に対する考え方は様々であるということです。学生は先生の講義をただ聴くだけでなく，自分から発信するなど，能動的に動くことによって，授業がより充実すると考えました。

大塚学長　そのとおりです。学生による



左から，大塚吉兵衛学長，小川文孝さん，佐藤怜さん

授業評価をきちんと提出するなど，「自分が授業をつくる」という気概を持って授業に臨むとよいでしょう。

専門性と教養を身に付け自己を確立する

小川さん　「自主創造」のもう一つの意味として，卒業までに自分の将来への道筋をつけることがあると思います。

大塚学長　国内はもとより，世界に羽ばたいていくためには，専門性とともに深い教養も身に付け，１人の社会人として自己が確立していることが求められます。「社会とかかわる」というのは，「様々な人とかかわる」ことです。社会，文化や慣習などが異なる人々と深くかかわればかかわるほど，価値観や考え方の相違にぶつかる場面に遭遇することが多くなるでしょう。その時に，自分の考えをしっかり答えることができてこそ，深い人間関係を築けるからです。

小川さん　高校までは，住む地域が近く，似たような環境で育った友達が中心でしたが，日本大学には全国から多くの学生が集まっています。私は大学で，たくさんの友達や先生と出会い，考えの幅が広がったと感じています。

佐藤さん　私も学生生活を通して人間的に成長できたのではないかと思います。ただ，キャンパスが複数に分かれていることもあり，他学部の学生と交流する機会が少なかったのが残念です。

大塚学長　現在，相互履修制度や遠隔授業によって他学部の科目の一部を履修できるほか，他学部との交流機会の充実を進めています。共に学ぶ中で培った人間関係は，生涯にわたって続くものとなるでしょう。授業はもちろん，行事やサークル活動などにも自ら積極的に参画し，生涯の財産を築いてほしいと思います。

このガイドブックの使い方

このガイドブックは，学生の皆さんの学修環境や学生生活の充実を目的に，主に新入生を対象にまとめた冊子です。

高校までの学び方は，決められた枠組みに沿って行われることが多かったと思います。しかし，大学での学修は，学生が主体的に自らの学修目的や考え方に従って，数多く設定されている科目の中から履修する科目を選択することが求められます。

大学での授業には，講義，演習，実験・実習など様々な形態があり，試験は論述式筆記試験やレポートなどいろいろな形で行われます。特に，新入生の皆さんは，こうした高校との違いに戸惑いを感じることが少なくないでしょう。

そのため，入学時には，オリエンテーションやガイダンスのほか，学生生活上の指導や履修に関する指導が行われますが，入学後にも，学修上のことで疑問を持つことがあるかもしれません。

そうしたときには，再び，このガイドブックを開いてください。きっと役に立つはずです。

表紙の“FD”って何？

ＦＤは Faculty Development の略で，「教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行うこと」を意味します。

具体的な取り組みとしては，教員の研究能力や教育能力の開発，教育システムの開発（カリキュラム，授業評価などのしくみをつくること），組織開発（教育研究組織などをベストな形にすること）が挙げられます。

日本大学では，ＦＤを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して，学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し，それを実行するため，教員が職員と協働し，学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。

ＦＤ活動を全学的に推進するため日本大学ＦＤ推進センターを設置し，様々な活動をしています。

CONTENTS

第1章 日本大学における学び 6

1 大学で学ぶということ …… 6
COLUMN 教養教育の重要性 10
2 “自主創造”とは …… 11
COLUMN 学生によるFD活動 13　COLUMN 日本大学の歴史 14
3 日本大学で学ぶということ …… 18
COLUMN オフィスアワー 21　COLUMN 学生の1週間の予定・アルバイト 22
Message 日本大学における学修① 23
4 日本大学を卒業した証し …… 24
COLUMN 就職に強い日本大学 25

第2章 履修登録とシラバス 26

1 時間割と履修登録 …… 26
COLUMN 学年制 26
2 シラバスの活用 …… 27
3 履修登録トラブル集 …… 29

第3章 授業の形態と受講 31

1 講義 …… 31
Message 講義の受講スタイル 35
2 演習（ゼミナール） …… 36
Message ゼミの受講スタイル 38
3 実験・実習・実技 …… 39
COLUMN 実験・実習の受講スタイル 42
4 論文・レポート …… 43
COLUMN 学びをサポートする大学図書館 46

第4章 成績評価 48

1 成績評価と単位 …… 48
2 必要な学修時間 …… 49
Message 日本大学における学修② 51
3 GPA制度 …… 52
COLUMN GPA制度と単位の実質化 54
4 授業評価 …… 55

第5章 快適な学修環境のために 56

1 キャンパス内マナー …… 56
2 人権侵害 …… 57
3 社会的問題 …… 59

日本大学における学び

1 大学で学ぶということ

》学ぶ主役は学生の皆さん

大学で学ぶには，教員の指導を受けるだけという受け身の姿勢ではいけません。**学修**[*]の主体者である学生の皆さんが「自ら学ぶ」という積極的な意志を持つ必要があります。

社会的には，大学生になると，未成年であっても自己責任が問われます。授業では，高校時代のように固定したクラスではなく，履修科目により教室が変わります。一番変わるのは，学ぶ姿勢です。大学生では，高校までの受動的学習から能動的学修へと変わります。また，初年次の学修への姿勢が今後の大学生活へ強く影響を与えます。

学生の皆さんには，「学修の主体は自分自身である」と強く認識することが求められます。



学修と学習
「学修」とは，大学で“学び”，教育課程を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成するために学ぶ行動を指す。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。

》大事な主体性と目的意識

あなたが日本大学に入学した目的は何でしょうか。自分自身の教養を高めたり，技能を身に付けたりするためではないでしょうか。学生生活で学び，修得したものを卒業後の生活に反映させ，充実した人生を送るとともに，そうした生き方を通して社会に貢献できる人間に育ってほしいというのが教職員の一致した願いです。

何のために大学に入学したのかをあらためて考えてください。何となく入学し，漫然と所定の修業年限*を過ごすのと，入学時から「自ら学ぶ」という主体性を持って学修するのとでは，卒業時における人間としての力が全く違うものになります。

大学に入学したことの意味を自分自身に問い，目的意識を持って，自分自身のために「自ら学ぶ」という強い自覚の下，学生生活を送ってください。

修業年限
教育課程を修了するために必要な在学期間。在学することのできる「在学年数」とは異なる。

》批判的なものの見方

高校での授業は，先生に言われたとおりノートをとり，１つの答えを導き出すために，文法や方程式などを暗記するのが学びの主なスタイルでした。しかしながら，大学では，「答えのない問い」に対して考えを導き出さなければなりません。また，科学技術などは日進月歩で変容しています。今日，修得したことが，将来違った解釈に変わる可能性もあるのです。そうした大学での学びでは，批判的にものを見ることが重要です。批判的にものを見るとは，「非難する」のではなく，他者の意見がどのような事実に基づいているのかといった根拠を確かめて，多面的・客観的に理解し，自らの考えを吟味することです。それには，他者の意

見に耳を傾けることが重要となります。さらに，そこで得た情報を自分なりに解釈して，自分自身の考えとして発信したり，議論したりすることが大学での学びでは必要になってきます。

こうしたことは，すぐに身に付くものではありません。大学での学修を通して，じっくり身に付けていくようにしましょう。

≫大学のプログラムに参加

高等教育の先進国であるアメリカでは，「教育の質を保証しなければならないのは，当事者の大学である」という考えが生まれています。こうして，初年次教育*，インターンシップ*，サービスラーニング*，キャリア教育*などきめ細かいプログラムが作られるようになりました。全ては学生の皆さんが，卒業後に成功を勝ち取るために考えられています。

これは日本でも同様です。初年次教育では，スタディスキルズ（p.20 参照）の習得，自らの意見を表現する方法などの指導があり，将来に向けたキャリア教育も熱心に展開されるようになりました。キャリア教育は，人生の進路・生き方を学ぶものです。それらは単一の科目やプログラムの受講で身に付くものではなく，大学での４年間の学びを通じて考えていくものです。

また，日本大学では，人生の進路を考えるという観点から，進路選択に関わる指導のほかに，業界セミナーや公務員対策講座など就職に直結する内容のプログラムを多くの学部で実施しています。このようなプログラムを生かし，学生自身が，それぞれの学修の場においてキャリア意識を高める努力をすることが大切です。

学生の皆さんは，目的意識を持ち，自身の特性や将

初年次教育
１年次生を対象に，レポート作成や資料収集など，大学における学修に必要な基本的な知識・技能・態度を伝える教育。

インターンシップ
企業実習。在学中に企業等で業務の実習を経験すること。希望する職業の内容を実際に理解し，学生と就業先との認識の相違を解消して，自らのキャリアを描けるという利点がある。

サービスラーニング
学んだ知識や技能を地域貢献活動等に生かすことを通して，市民的責任や社会的役割を認識してもらうことを目的とした教育方法。

キャリア教育
学生一人ひとりのキャリア発達を支援し，それにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てる教育。大学は就職と直結するため，正課内教育のほか，各種の就職支援もキャリア教育の一環として実施されている。

来の方向を考えながら，大学の提供する授業以外のプログラムにも積極的に参加しましょう。何となく大学へ入学してきたと考えている人にとっても，将来，自分が進みたい方向を見つける絶好の機会になるでしょう。

》友人とのコミュニケーション

大学は，高校のように決まった場所で同一の学生と同じ講義を受講するわけではありません。必修科目以外は，自分が興味を持った科目を主体的に選びます。必修科目では，同じ学科等に所属する学生とともに受講しますが，総合教育科目などでは，自分とは異なる学科に所属する学生や，出身地の異なる学生と接する機会があり，多くの情報や気づきを得ることができます。日本大学のように多分野の学問領域があり，全国から学生の集まる大学では，コミュニケーションに磨きをかけることができるでしょう。自分の所属する学部・学科だけでなく，外に目を向けて多くの友人をつくり，学生生活を楽しむことが大切です。



COLUMN

教養教育の重要性

総合的教養力を身に付けた人材が必要

大学の総数が少なかった時代には，「学士」（p.24 参照）の称号を持つ人々（大学卒業生）は，各自の専門分野は言うに及ばず，古今東西の広い教養を身に付けた文化人と見なされていました。そして，社会全体から，有為な人材として前途を嘱望されていました。

日本の大学進学率は50％を超えましたが，ますますグローバル化していく現代社会においても，学士号を持つ人材の活躍は，必要とされています。

その背景には，人文科学・社会科学・自然科学の学問がさらに細分化・複雑化・専門化し，新たに派生する諸問題に対応するようになっているからです。また，近年は，従来の人文科学・社会科学・自然科学と，それらの学際領域（学問分野がまたがる部分）をどのように統合していくかという重要課題があります。これを解決するのも，いわゆる総合的な教養を身に付けた人材に求められているのです。

学問分野の中でも，とりわけ自然科学分野においては，現在の最先端の知識や技術は10年もすれば新しい技術に取って代わることでしょう。実際，科学技術に関しては，このような事例がいくつも歴史によって証明されています。しかし，ここで重要なのは，新しい技術を創造・考案する際に必要なのが，学際領域を統合した総合的な教養力です。多様化した学問体系，様々な価値観が渦巻く現代社会では，学際領域を補完し，人類の文化と福祉に寄与する能力がまさに「総合的教養力」といえるでしょう。高等教育の根幹となる各自の専門性だけでなく，大学の教養教育で身に付けた総合的教養力は，生涯にわたって文化人・教養人に必要とされている素養なのです。

重視される リベラルアーツの重要性

近年，総合的教養力を重視する大学が目立ってきています。例えば，「教養」を「リベラルアーツ」などと呼称する学部も国内外に存在しています。中世のヨーロッパでは，大学において，法学・医学・神学・哲学が伝統的な学術として教授されていました。その後，現在の学問体系は，大きく分けて人文科学・社会科学・自然科学が世界中で定着しました。長い時を経てこの３分野は多くの学際領域を包含するもので，リベラルアーツ（教養的学問）の重要性を私たちに提示しているように思えます。

日本大学に入学した皆さんは，総合的教養力を社会から求められているといえます。本学では，学生の総合的教養力の醸成に取り組んでいます。

（全学ＦＤ委員会教育情報マネジメントワーキンググループメンバー・生物資源科学部教授　金山喜一）

2 “自主創造”とは

≫日本大学の「目的及び使命」

日本大学は,「日本大学学則」(第１章第１節)に「目的及び使命」を，次のとおり明示しています。

「日本大学は，日本精神にもとづき，道統をたつとび，憲章にしたがい，自主創造の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

日本大学は，広く知識を世界にもとめて，深遠な学術を研究し，心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。」

この「目的及び使命」は，時代の推移に即応して数回の改訂を経ていますが，その淵源は，明治22(1889)年に創立された本学の前身である日本法律学校の設立主意書に求めることができます。

≫日本大学の教育理念「自主創造」

平成19(2007)年度には，本学の新しい教育理念を「**自主創造**」とするとともに，ロゴマーク「**N .**」(Nドット)と，キャッチフレーズ「あなたとともに　100万人の仲間とともに」(次ページ参照)を定めました。

“自主創造”とは何かをまず考えてみましょう。そして学年が上がったら，また考え直してください。きっと社会に出てからも，この“自主創造”の理念が人生の礎となってくれることと思います。

「自主創造」を新理念としたのは，学則の「目的及び使命」にうたわれていることに加え，「自主創造」

の気風に満ちた人材の養成が今まさに社会で求められているからです。21世紀が知の世紀と強調され，その知は「積極的な知」，つまり，「自主創造の知」であり，国際化に対応できる人材の特性が「自主創造」であることによります。本学でそれぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし，「自主創造」のできる人材の養成を目指します。

ロゴマークは，日本大学カラーの「緋*」色を使用し，頭文字「N」を力強く躍動感のある書体で表しています。「N」の横のドットは，建学の精神･理念である「日本精神」「日本の伝統・文化の尊重」「個の尊重」とともに「輝く太陽」を意識しています。

キャッチフレーズの「あなたとともに　100万人の仲間とともに」は，愛情を込めた連帯感を表現しています。校友100万の絆とパワーを表し，他の大学にはない本学の特色を打ち出したものです。

なお，各部科校*では，本学の「目的及び使命」「教育理念」に基づき，それぞれ独自の「教育研究上の目的」を策定しています。所属する学部等のホームページを確認してください。

自主創造
日本大学
あなたとともに
100万人の仲間とともに

緋色
濃く明るい赤。ページ下のロゴマーク参照。

部科校
日本大学が設置する大学院・学部・通信教育部・短期大学部・高等学校・中学校・幼稚園および専修学校を総称した呼称。

COLUMN

学生によるＦＤ活動

学生の視点で教育改善

日本大学では，ＦＤ活動を教員個人が取り組むものではなく，教員，職員，学生の三者が組織的に展開するものと位置付けています。その中で，学生が果たすべき重要な役割は，授業を受ける側である学生の視点からの提言にあります。

かつての日本の大学の授業形態は，教員が一方的に講義を行い，学生は黙って聴くだけというものが主流でした。しかし，昨今では，学生と緊密にコミュニケーションを取りながら進める双方向型授業や，学生が能動的に参加するタイプの授業の有効性が認められるようになってきました。現在では，学生から授業の進め方や内容について意見を聴き，それを生かして大学教育を改善していくことの意義が認識されています。

全国の大学が交流

学生主体のＦＤ活動をより活性化させるため，全国の大学が参加する「学生ＦＤサミット」が，年２回，開催されています。

「学生ＦＤサミット」では，学生によって，各大学におけるＦＤ活動の取り組み内容の報告や，情報交換が行われます。参加者は，他大学の取り組みを知り，自分の大学でそれを生かす道を模索します。

学生によるＦＤ活動は，大学での授業を，興味深く，有意義なものとするために大変有効なものです。積極的に授業の内容や進め方に対して提言を行っていく活動だといえるでしょう。

本学における学生ＦＤ活動としては，例えば，文理学部で 2013 年度に開講された，学生発案型の授業を挙げることができます。その授業は，前年度の秋に学生が企画し，それを担当できる教員に依頼して開講されました。毎回，テーマが設定され，受講者全員がそのテーマについて調べてきたことを授業で発表した後，皆で議論するという授業でした。

（文理学部ＦＤ委員会専門委員会委員長・文理学部教授　古田智久）



「学生ＦＤサミット 2013 夏」で，日本大学文理学部における学生ＦＤ活動について発表する学生。



文理学部の学生発案型授業。学生が主体となり，授業の運営をしている。

COLUMN

日本大学の歴史

日本法律学校として設立

日本大学の前身である日本法律学校は，明治 22（1889）年 10 月 4 日に創立されました。大日本帝国憲法が発布され，また欧米の近代法を取り入れた刑法・民法・商法などの諸法典も整備されつつある時期でした。

司法大臣の山田顕義（あきよし）は，それまでの欧米諸国の法律を学ぶことが主流の法学教育に疑問を持ち，日本の伝統・慣習・文化を踏まえた日本の法律を教育する学校構想を抱いていました。

同時期，宮崎道三郎・金子堅太郎などの若き法律学者たちも，日本法学教育の必要性を認識し，山田とは別に日本法律学校設立構想を進めていました。同様の構想を進めていることを知った山田は，宮崎らを全面的に支援し，日本法律学校は創立されました。

現在，日本大学では，創立に関わった法律学者など 11 名を創立者とし，彼らを全面的に支援した山田顕義を学祖として顕彰しています。



設立者総代
宮崎 道三郎



初代校長
金子 堅太郎



学祖　山田顕義

学祖 山田顕義の活躍

山田顕義は，弘化元（1844）年，長門国萩（現山口県萩市）で，山田顕行の長男として誕生しました。吉田松陰の松下村塾に入門し，幕末から明治初年にかけては，軍人としての才能を発揮します。特に戊辰戦争では，新政府軍を率いて，東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍平定に功績を挙げました。

明治 4（1871）年，岩倉使節団に理事官として随行し，欧米諸国の軍事制度を調査研究します。

帰国後は，司法省に勤務して近代法整備に尽力しました。その後，参議兼工部卿，内務卿，司法卿を歴任し，明治 18（1885）年，内閣制度発足に伴い，初代司法大臣に就任しました。

教育面では，明治 22（1889）年には皇典講究所所長に就任し，同所内に日本法律学校を創立しました。

明治 25（1892）年 11 月，山口亀山における旧藩主毛利敬親等銅像起工式出席の帰路，生野銀山（現兵庫県朝来市生野町）を視察中，49 歳で急逝しました。

創立の目的

日本法律学校の創立目的は「日本法律学校設立主意書」に記されています。これを要約すると，（1）日本の法律は新旧を問わず学ぶ，（2）海外の法律を参考として長所を取り入れる，（3）日本法学という学問を提唱するという３点です。

欧米法教育が主流な時代にあって，日本の法律を教育する学校の誕生は，大いに独自性を発揮することとなりました。

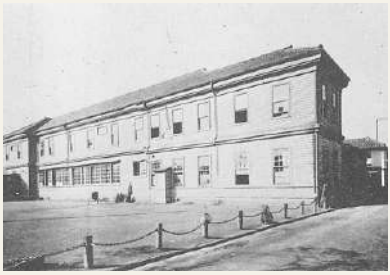


日本法律学校広告

千代田区に校舎建設

日本法律学校開校当初は，飯田町（現東京都千代田区飯田橋）にあった皇典講究所の一室を借りて授業が開始されました。明治 23（1890）年には國學院（現國學院大學）も同所に創立されたため，昼は國學院，夜は日本法律学校が同じ場所で授業を行いました。

明治 29（1896）年，日本法律学校は神田区三崎町（現千代田区三崎町）に初の独立校舎を取得しました。これが現在の法学部本館のある場所です。



明治期の校舎

日本法律学校から日本大学へ

明治 36（1903）年，日本法律学校は，校名を日本大学として大学組織に改め，翌 37（1904）年，専門学校令による認可を受けました。

大正 9（1920）年，大学令による大学となり，本学は総合大学への道を歩むこととなります。

大正 12（1923）年の関東大震災では全施設が壊滅的な被害を受けましたが，すぐに復興を成し遂げ，人文･社会･芸術・自然・医歯系の広範囲に及ぶ教育組織を整備しました。

（広報部大学史編纂課）

年表

明治22（1889）年	10月	日本法律学校創立
明治26（1893）年	7月	第1回卒業式を挙行
	12月	校友会を結成
明治31（1898）年	3月	高等専攻科を設置し，卒業生に日本法律学士の称号を授与
明治34（1901）年	10月	高等師範科（現文理学部）設置
明治36（1903）年	8月	日本法律学校の組織を改正し，校名を日本大学とする
明治37（1904）年	3月	専門学校令による大学となる
	3月	商科（現経済学部ならびに商学部）設置
明治39（1906）年	8月	初の留学生を欧州に送る
大正3（1914）年	4月	「建学の主旨及綱領」を制定
大正9（1920）年	4月	大学令による大学となる
	4月	初めて女子入学を許可
	5月	校歌を制定
	6月	高等工学校（現理工学部）設置
大正10（1921）年	3月	法文学部に美学科（現芸術学部）設置
	4月	東洋歯科医学専門学校（大正5年創立）を合併（現歯学部）
	9月	大学色を「紅」に決定
	10月	日大新聞（現日本大学新聞）創刊
大正11（1922）年	3月	大学旗を作製
大正14（1925）年	3月	専門部医学科（現医学部）設置
	3月	大阪に日本大学専門学校（現近畿大学）設置
昭和4（1929）年	5月	新校歌を制定（現校歌）
昭和10（1935）年	10月	日本大学本部・図書館竣工
昭和13（1938）年	10月	創立50年記念式典挙行
昭和18（1943）年	5月	農学部（現生物資源科学部）設置
昭和22（1947）年	3月	専門部工科（現工学部）を福島県郡山市に移転
昭和23（1948）年	11月	通信教育部を設置
昭和24（1949）年	4月	新学制による大学となる
昭和25（1950）年	4月	短期大学（現短期大学部）設置
昭和27（1952）年	2月	工業経営学科（現生産工学部），薬学科（現薬学部）設置
昭和33（1958）年	6月	日本大学講堂設置
昭和34（1959）年	9月	「目的および使命」を改訂
	10月	創立70周年記念式典挙行
昭和46（1971）年	4月	松戸歯科大学（現松戸歯学部）設置
昭和54（1979）年	4月	国際関係学部を設置
昭和57（1982）年	7月	日本大学会館設置
平成元（1989）年	10月	創立100周年記念式典挙行
平成6（1994）年	10月	総合学術情報センター設置
平成19（2007）年	6月	教育理念を「自主創造」と決定
平成22（2010）年	6月	桜門会館設置

入学式



日本大学のシンボル　桜



海外サマースクール



学生食堂



授業風景



卒業式



Event

3 日本大学で学ぶということ

》自ら考え，判断する力

大学では，専門教育科目だけでなく，知識人として必要な一般教育科目や総合教育科目を広く学びます。また，大学での学びは，教員の講義や教科書・参考書の内容を正しく理解することにとどまりません。むしろ，**自らが考え，判断する力を養う**ことが大切です。高校までは，ともすると受け身の学習姿勢が主でしたが，大学では主体的に学ぶ積極性が特に求められます。

大学では，学年を追うごとに専門教育科目が増え，それに伴って，より多くの知識が必要となります。そのため，本格的な専門教育科目を学修する準備段階として，なるべく早期に，できれば初年次修了時までに基礎学力を身に付けることが必要です。

さらに，国内はもとより諸外国で，より良い人間関係を築くためには，日本語・外国語の語学力が不可欠であり，コミュニケーション力を身に付けなければいけません。それらを学ぶことが，人間性の向上にも深く関わっているからです。



外国人留学生と交流する日本人学生。



ゼミの授業風景。自分自身で考えることが大事。

≫日本大学が育成を目指す人材像

日本大学では，教育理念「自主創造」のもと，日本大学が育成を目指す人材像を**「自主創造型パーソン」**と定めています。これは，激しく変化するグローバル社会，不確実性の高い社会環境，価値観の変化，突発的な天災などの状況下においても**自ら考え行動できるような，卓越した創造力・判断力・コミュニケーション力を持つ，人間力豊かな人材**のことを示しています。言葉だけを見ると，難しいことのように感じますが，大学が提供するカリキュラムや各種プログラムに対して主体的に取り組むことにより，自然と身に付くものなのです。

また，「自主創造型パーソン」となるには，課外活動も重要となってきます。大学の講義だけでは身に付かないこともたくさんありますので，積極的に課外活動に参加し，大学生活を有意義なものにしてください。



》多種多様な人とのつながり

日本大学は，多くの学部・学科，キャンパスを有する日本最大級の私立総合大学です。学生も全国各地から，様々な目標を持って集まってきています。地理的に遠い学部もありますが，ゼミナールやサークル活動などを通して交流することができます。同じ日本大学へ入学して，異なる目標の下，異なる環境で異なる学問分野について学んでいる学生と知り合い，切磋琢磨することにより，様々な学びが得られます。

教員の研究分野も多様です。大学では，通常，２年次以降にゼミナールや研究室に所属し，１人の指導教員の下で自らの専門分野について勉強する形式が主流です。しかし，専門分野を学ぶうちに，その周辺分野の学びも必要になってきます。その際は，指導教員に相談し，助言をいただける教員が自分が所属する学部内だけでなく他学部にいないか調べてみましょう。そのような教員がいたら，アポイントメントをとって訪問し，直接意見を伺うことも大切です。

卒業生数日本一の日本大学は，社会のどの分野においても卒業生と出会うことができます。就職活動の一環で行うＯＢ・ＯＧ訪問では，日本大学の規模とその利点を最大限に感じることができるはずです。社会に出てからも，その有用性を感じることでしょう。

》学びをサポートする種々のしくみ

日本大学は，**学生の学びをサポートする種々の体制**を整備しています。初年次には，リメディアル教育科目*，スタディスキルズ*等，大学における学修への橋渡しとなる科目を設置しています。また，日本大学の中で他の学部・学科の授業を受講できる「相互履修制

リメディアル教育科目
補習教育科目。大学教育を受けるために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

スタディスキルズ
ノートの取り方，レポートの書き方，資料の探し方など，大学での学びに必要な学習方法や，専攻分野特有の専門的な学習技術を身に付ける科目。ウォーミングアップ学習として位置付けられる。

度」があります。卒業までの履修計画の中で，自身の専門以外に興味のある科目を受講してみてもよいでしょう。

それとは別に，学部等によっては学習支援センターなどを設け，基礎学力の向上を積極的にバックアップしています。また，学生相談室には，インテーカー*や相談員が随時待機していて，学生生活全般について相談ができます。さらに，オフィスアワー*では，各教員が担当する科目の質問や種々の相談に応じています。

自分の第一希望だった学科に入学できなかったり，在学中に自分の専門に興味を失ってしまう学生もいるでしょう。大学生活全般で少しでも不安に感じていたり，違う勉強をしてみたいと感じるようになったら，教務課や教員に相談してください。

日本大学の学生であることを自覚するとともに，これらのサポートを有効に活用し，より充実した学生生活を送ってください。

インテーカー
受理面接者。依頼者に会って内容を把握し，最適な相談者や機関を紹介する。聴く技術，把握する知識があり，良い関係づくりができる人。

オフィスアワー
下のコラム参照。

COLUMN

オフィスアワー

オフィスアワーは，学生の皆さんが教員に聞いてみたいことや，相談したいことがあった場合，**直接，教員と話ができる時間**です。基本的に，疑問点などがあればいつでも教員を訪ねてよいのですが，教員も授業のほかに会議などで，研究室に不在で対応できないこともあります。あらかじめ設定されているオフィスアワーを利用すれば，こうした問題は解消されます。

学生の皆さんは，シラバスなどに記載されている各教員のオフィスアワーの時間と場所を調べ，気軽に教員を訪ねてみてください。授業や事前学習の疑問点解消のため，積極的に活用するとよいでしょう。



オフィスアワーに，先生の研究室を訪問し，相談する学生。

COLUMN

学生の1週間の予定・アルバイト

授業時間数と同じだけの学習時間を確保

教員が新入生に伝えたいことは数多くあります。専門性を身に付けるとともに，それを獲得する上でも重要なアカデミック・スキルズを習得することが代表的な例です。ただ，まず初めに考えてほしいのは，大学生活に多くの期待を抱いている今だからこそ，近い将来，あるいは遠い将来に向けてやりたいことを明確にして，卒業までの計画を立て，それを踏まえた1週間の計画を練ることです。その際，少なくとも次の点に留意してください。

履修科目が決まると，その前後の空き時間や授業のない曜日などが見えてきます。例えば，年間40単位は修得するとして，半期で20単位10科目，仮に1限目から5限目まで授業を詰め込めば，2日間で必要な科目数を履修することも可能です。「時間が空いているからアルバイトでも入れよう」と考えているのなら，大学の単位修得を少々軽く見ているのか，既に大学での目標を見失っているのかもしれません。

大学における単位修得の前提は，授業への出席はもちろん，その前後の自習（予習・復習）も含まれています。まずは，授業時間数と同じだけ（できればそれ以上）の学習時間を確保してください。科目によって必要な学習時間に差があります。少なくとも5月，できれば前期終了までは，自分の力量を測る期間として，空き時間の使い道を見極めましょう。単位修得だけを目標とするのではなく，理解の水準や専門性の到達目標を高く設定していれば，それほど空き時間は作れないはずです。

学業を優先したアルバイトの設定

仕送り額がどちらかといえば低い方だった筆者は，生活費を補うためにアルバイトをしていました。周りの友人と同じように，親睦会や部活動の合宿に参加しようと思うと，アルバイトの量が必然的に増えました。日中は授業があるので，夕方から夜にアルバイトをしていましたが，週4日入れていたころは，1限目の授業にあまり出席できませんでした。しかも，突然，追加を頼まれることもあり，実際には週4日以上の時間をアルバイトに費やしていました。当時の自分は強い意志で断ることもできなかったのです。

最終的に，アルバイトは週2日程度に抑えることにし，お金の掛かる大学生活は諦めました。時間を自分のために「投資」できる生活に変えたわけです。「あきらめる」を「明らかに極める」の意味ととらえれば，案外，大学生活で「あきらめる」ことも重要なのかもしれません。

（全学ＦＤ委員会教育情報マネジメントワーキンググループ）

Message

日本大学における学修①

納得できないことは徹底的に追究を

商学部経営学科 教授　高久保 豊



大学の授業では，解明すべき課題を自ら見つけ出し，それを自ら解決していくことが求められます。これは，先生から教えられた知識を身に付けることが中心だった高校の授業との大きな違いです。

予習と復習が不可欠であることは，高校と変わりません。教科書を読み，分かった部分，分からなかった部分をノートに区別して書いてから授業に臨みましょう。10 分間でも予習をすると効果があります。そして，授業を聴いたその日のうちに復習してください。ノートを見て授業を再現できればまず合格です。

プリントが配られる授業でもノートは必ず用意し，自分の手で先生の説明を筆記しましょう。最初はなかなかうまく書き取れないかもしれませんが，繰り返しているうちに，要点を整理しながら，系統的にまとめられるようになります。

もし，授業を聴いていて，疑問点や納得できないところがあったらどうすればよいでしょうか。まず，堂々とその先生に尋ねるのが早道です。それでも納得がいかなければ，授業を担当している先生のほか，関連がありそうな先生を訪ねてもよいでしょう。いろいろな先生と出会ってください。

もちろん，図書館で調べることも怠りなく！数多くの専門書やデータベースの中から目的の資料を探すには，まず図書館の使い方に慣れましょう。その第一歩は図書館に足を運ぶことです。驚くべき発見にワクワクするはずです。

授業を聴いて「分からない」「なぜだろう」と思っても，恥ずかしがる必要はありません。自分の課題に気がついたことを誇りに思ってください。学問は課題を発見するところから始まります。

じつは，その課題には模範解答があるとは限りません。自分の納得できた説明が，従来の学説と異なっていてもいい。説得力のある論証を行い，定説を覆してください。それが大学の面白さです。

今までにない視点から捉えてこそ，学問は進化します。独創的な学びによって，学生の皆さんが学問の新たな扉を開けてくれることを期待しています。



ゼミの様子。他の学生の発表内容について全員で考え，意見を言い合う。

4 日本大学を卒業した証し

》学位の授与

学位とは，大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号です。学部等によって定められたディプロマ・ポリシー*の下，修業年限に達し，所定の授業科目および単位を修得して卒業した学生に「**学士**」（学部），「**短期大学士**」（短期大学部）の学位が授与されます。

学位は，「学士（○○○）」のように表記され，（○○○）の箇所には専攻分野の名称が入ります。例えば，法学部を卒業すると「学士（法学）」となります。

卒業と同時に学位を授与する大学では，いわゆる“卒業証書”のことを「学位記」といいます。日本大学では，日本大学全体で行う卒業式とは別に学部等ごとに学位記授与式を行って，卒業生に「**学位記**」を授与します。

このように，学位は，学部等ごとに定めた「教育研究上の目的」の下，本学で特定の専門分野を学修し，一定の教育課程を修めた証しとなるものです。

ディプロマ・ポリシー
卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。

》さらに専門分野を追究

学部で専門科目を勉強し，さらに専門分野の知識を深化させて社会に出たいと感じたり，研究者を目指したいと思ったら，大学院という進路があります。

大学院に通学すると，修士（大学院博士前期課程〔修士課程〕），博士（大学院博士後期課程〔博士課程〕），あるいは専門職（大学院専門職学位課程）の学位取得に向けて，学修・研究することになります。修士以上の学位は，一定の専門性を有する人材としての称号だといえます。

COLUMN

就職に強い日本大学

卒業後の自分を思い浮かべたことがありますか。

日本大学は100万人を超える卒業生を有し，数々の先輩方が社会で活躍しています。その証しとして日本大学出身の社長の数は２万人を超え，30年連続で日本一を誇ります。

だからといって「自分も簡単に就職できる」と安心してはいけません。大学での学びをスタートさせる前に，自分が「将来，何をしたいのか」「何になりたいのか」をイメージすることが重要です。そして，そのイメージに少しでも近づけるよう自分自身を磨いてください。自分自身で考え，動くことができる人間こそ，社会で求められている人材だからです。

実際，就職活動の面接では，自己ＰＲや志望動機はもちろん，大学時代に何をしたのか，大学で自分をどのように磨いて，社会に飛び出そうとしているのか，そして自分がどのように役立つことができる人間なのかを問われます。つまり，学生生活を充実させることが重要なのです。

そして，その経験を自慢できるくらい語れれば，自ずとゴールは見えてくるはずです。まずは将来のための自分づくりに積極的に励み，様々なことにチャレンジして，多くの貴重な経験をしてください。

日本大学では，学生の就職活動を万全の体制で支援すべく，各学部で数多くのプログラムを用意しています。例えば，学生が誰でも利用できる『NU就職ナビ』には，毎年約１万件にも及ぶ企業からの求人情報や，16万件の企業情報，OB・OGの有無，先輩たちの就職活動報告など，就職活動に役立つ情報が掲載されています。

また，最近では，インターンシップに参加する学生が増えています。３年生を対象にしたものが多いのですが，低学年向けのインターンシップも増加しています。積極的に参加して，社会や企業がどんなところなのか，働くとはどういうことか肌で感じてください。

このような支援プログラムに参加したり，就職指導課や「NU 就職ナビ」を利用したりして，自分の希望する未来のために日々研鑽しましょう。

（学生支援部就職課）

求人件数：9902 件

産業分類	産業別求人状況
農業	0.4%
林業	0.1%
漁業	
鉱業	
建設業	9.4%
製造業	17.8%
電気・ガス熱供給・水道業	0.2%
情報通信業	14.4%
運輸業	2.6%
卸・小売業	19.4%
金融保険業	3.0%
不動産業	1.8%
飲食店・宿泊業	1.6%
医療・福祉	7.0%
教育・学習支援業	2.8%
複合サービス事業	1.2%
サービス業	18.3%

履修登録とシラバス

1 時間割と履修登録

》履修のチェックポイント

年度（学期）の初めには，各学部で定められた方法に従って，履修する科目を選択・確認し，登録します。この履修登録は，所定の期間内に済ませなければいけません。方法は学部等によって異なりますが，ウェブによる登録が多くなっています。

授業科目は，教育活動の成果として保証するディプロマ・ポリシーを踏まえ，体系的に設けられています。その教育内容ならびに学修・教育方法全体（教育課程）がカリキュラムです。

カリキュラムの中心をなすのが，卒業までに必ず修得しなければならない必修科目であり，それぞれの学

COLUMN

学年制

「学年制」とは，各学年での教育課程を修了し，進級・卒業する「学年進級制」を採る方式のことです。学年によって定められた科目の単位を修得し進級判定されなければ，進級できません。

「学年進級制」は，卒業時に国家試験に合格し国家資格を取得する必要のある医・歯・薬系の学部・学科が採用しており，日本大学では，医学部，歯学部，松戸歯学部，生物資源科学部（獣医学科）および薬学部が，この方式を採っています。

なお，詳細については，各学部の『学習要項』等を参照してください。

科や専攻の核となる科目です。必修科目以外には，選択必修科目，選択科目などがあり，様々な分野の科目が設けられています。年度ごとに，どの科目をどのように履修するかは，一定の要件の下，個々の学生の自主的な判断に基づいて決められます。

選択必修科目や選択科目は，多様な学問の方向性に対応できるように工夫されています。自分自身で勉学の目的・方向を定め，それに応じて時間割を組み立てましょう。必修科目，選択必修科目（および段階制科目），選択科目は，それぞれが所属する学科，コース，または自分自身の学修目的などに応じて履修登録することが望ましく，そのために，次の点に注意してください。

（1）シラバスで授業科目の概要を理解する。
（2）必修科目は定められた履修年次に必ず履修する。
（3）学科別専門教育科目と他の科目（一般教育科目・総合教育科目，外国語科目，保健体育科目，共通選択科目等）のバランスをとる。
（4）科目数および曜日・時限を適切に配分し，学修に無理を来さない。

2 シラバスの活用

≫シラバスは授業の羅針盤

シラバス（Syllabus）は，授業概要や授業計画を示す，いわば授業の羅針盤です。担当教員によって作成され，学部のホームページなどで公表されています。授業の概要を理解するためのもので，学生の皆さんの学修を成功に導く役割を果たすため，必ず目を通しておきましょう。

まず自分が受講したい授業のシラバスを探します。授業科目名と教員名を確認することが第一歩です。授業のテーマ，目的・到達目標を見ると，何をどこまで学ぶのかがわかります。

授業方法は，講義，演習，実習・実験科目など多彩です。履修要件などがあれば，それをクリアしているかどうか確認しておくことが必要です。各週の「予習」と「復習」についての具体的な指示も書かれています。授業は，予習・復習と講義への出席から成り立っています。教科書の指定があれば授業初日までには準備しておきましょう。参考書などは，図書館を利用することが賢明です。

シラバスは学期ごとに書かれ，多くは 1 学期で 15 週の授業計画が示されています。教科書を使う授業であれば，おおむね教科書の目次に沿って進むでしょう。

学生にとって，成績の評価方法や評価基準の欄は大いに気になるところです。試験が重視されるのか，レポートや授業中における発表，発言が評価されるかなどを確認してください。シラバスは，コピーしてノートの最初のページに貼ったり，携帯端末に取り込んだりしておき，時々参照するように心掛けましょう。

シラバスの具体的な内容は，学部等によって異なっています。ポイントを十分理解し，本当に自分が受講したい授業を履修できるようにシラバスを有効活用しましょう。

■シラバス記載項目

1. 科目の基本情報

1－1 授業科目名
1－2 担当教員名
1－3 開講学科・コース（必要に応じて記載）
1－4 対象学年・履修条件
1－5 期間（前期・後期・通年）
1－6 単位数
1－7 必修・選択の別

2. 授業内容

2－1 授業の概要
2－2 授業の目的・到達目標
2－3 授業の方法
2－4 準備学習・授業時間外の学習
2－5 授業計画（半期15週それぞれの内容）
2－6 成績評価の方法及び基準

3. 教科書等

3－1 教科書
3－2 参考書（参考ホームページも含む）
3－3 連絡先（オフィスアワー，e－mailなど）
3－4 その他（履修上の注意，受講生に対する要望，TA・SAの有無など）

3 履修登録トラブル集

≫登録ミスのないように確認

学期が始まる前に，シラバスに目を通しておきましょう。学部・学科のガイダンスなどに参加して履修科目が決まったら，決められた期間に履修登録します。履修登録が完了すると，あなたの名前が記載された履修者名簿が担当教員の手元に渡り，それをもとに出席確認がなされます。

希望科目の履修登録を失敗してしまうと，授業に全て出席して試験を受けたとしても，単位を修得できなくなります。大学は，履修登録期間のほかに履修登録内容確認期間を設けるなどして，履修登録でミスをしないように配慮しています。やむを得ない理由により，所定の期間に履修登録ができなかったり，確認できなかったりする場合は，早めに教務課に相談しましょう。

学部や学科によっては学期中に修得できる受講単位数の上限を設けている場合もあります。学年や学科・コースの配当，先修条件*など，履修に当たってのルールが設けられています。学年が上がるほどケアレスミスが多くなる傾向がありますので，友人と互いに照合しながら進め，疑問点があれば必ず教務課で確認することが大切です。



先修条件
体系的な学修のための条件。例えば，上級学年のより専門的な配当科目を履修する場合に，その基礎となる教養的な科目を下級学年で履修することで，当該科目の学修を効果的に深く行うことができる。

授業の形態と受講

1 講義

》講義に取り組む姿勢

高校までの学習は，教科書の内容や教員の説明を正しく理解し，記憶することが中心であり，これは学習上，大切なことです。しかし，大学での学修は，それにとどまりません。講義では，教員が自らの研究を基礎として，さまざまな前提や立場から専門的な理論や学説を論述していきます。そのため，講義には担当教員の考え方，見方が大きく反映されるのです。

従って，受講する学生も講義内容をしっかりと把握する一方で，真意をよく理解せず受け入れるのではなく，その論理や論旨の妥当性について自分なりに考え，検証していくことが求められます。こうした学びの姿勢が，やがて自らの頭で考え，自らの言葉で発言し，自らが物事を判断していく能力を養うことにつながります。これも大学の講義の大切な目的といえます。

講義の様子。



》様々な講義形態

講義の進め方は十人十色，教員によって実に様々です。例えば，黒板にひたすら板書をする教員もいますし，レジュメ*を配布して板書をほとんどしない教員もいます。板書とレジュメの両方を活用する教員もいます。また，最近では，スライドを利用して授業をする教員が増えてきました。プロジェクタを用いてインターネット画面を映すこともあります。このような視聴覚教材を使って学ぶと，講義が一層理解しやすくなります。

まずは，授業している教員がどのようなタイプなのかを理解して，授業の受け方やノートの取り方を工夫する必要があるでしょう。

レジュメ
レジメともいう。摘要のこと。研究報告などで，その内容を手短にまとめて示したもの。

》欠席は命取り！？

講義科目に限らず，演習科目や実験・実習・実技科目でも「出席する」ことは前提条件です。高校の授業と違い，教員が教科書どおりに授業を進めるとは限りません。教科書から外れた寄り道の話が，実は重要であることもあります。授業を休んでしまうと，その授業は聞けません。

また，教員は教える講義の内容を 15 週のストーリーとして考えています。テレビドラマを 1 週見逃すと，大筋は理解できても細部の理解はできなくなってしまうのと同じように，授業の内容も十分な理解ができなくなってしまいます。

また，授業に主体的に取り組む上での最も基本的な姿勢として，授業開始時刻に遅刻しないように努めましょう。授業の途中から出席すると，教員や他の学生に迷惑がかかるばかりか，欠席したのと同じように十

分な学修効果が見込めなくなってしまいます。

≫ノートの取り方

講義の進め方は，教員によって異なります。授業はシラバスに従って進められることが原則ですが，受講生の理解度や質問に対応するため，進度等の一部が適宜変えられることもあります。講義では学術用語も出てくるでしょう。そこで，大切なのがノートの取り方です。ノートには，板書だけではなく，教員が話したことを書き取ることも大切です。講義の要点，重要なキーワードを逃さずノートに書いていきましょう。後で見返したときに，講義の内容を思い出せるようなノートづくりが求められます。

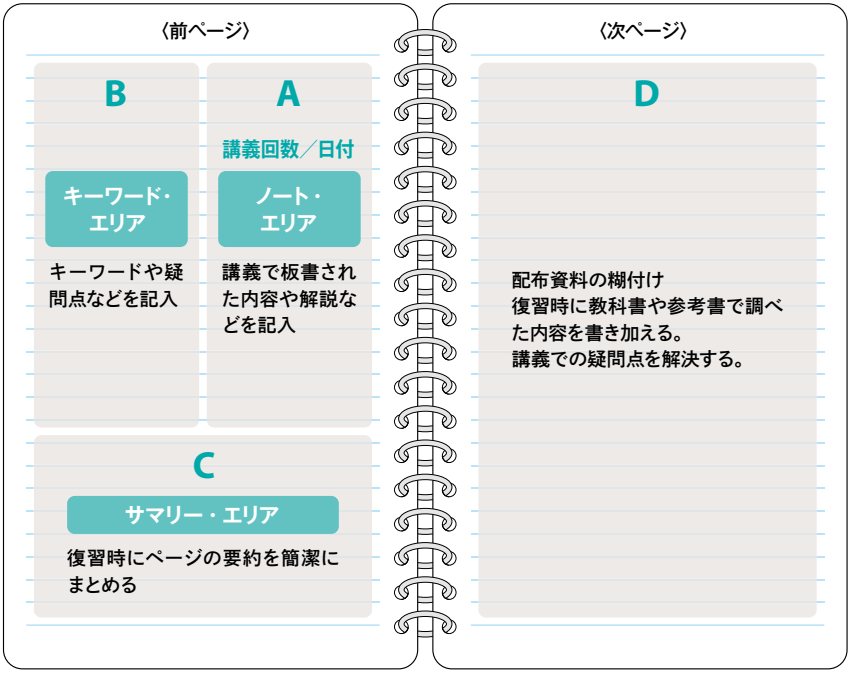
中学や高校時代と違って，教員はノートに取るべき内容を細かく指示しません。授業をよく理解することに注力し，理解をさらに深めるために自分なりに工夫してノートを取る必要があります。ノートは，復習にも役立ちますし，定期試験やレポートの提出時などには授業を振り返るために不可欠なものとなるでしょう。また，履修した授業で取ったノートの蓄積は，卒業論文・卒業研究などに向けても，貴重な財産となるはずです。



良いノートをつくるための方法を一つ紹介します。授業中にはノートの上半分（または左ページ）だけを使い，下半分（または右ページ）には，後で整理し，まとめたものを記載するようにします。また，疑問点が出てきた場合には，後で教員に質問できるよう，そこに記述しておきます。

この作業は，授業の内容について鮮明な記憶のあるその日のうちに済ませておくことがベストです。こうしておけば，復習にもなり，講義内容が整理された良いノートが残せるようになります。

■ノートのレイアウト例（コーネルメソッド参考）



出典／日本大学法学部 佐渡友 哲教授・編著 2011,『大学入門―政治と経済を学ぶマナースキル』北樹出版

Message

講義の受講スタイル

自ら学ぼうとする意思が必要

生産工学部電気電子工学科４年　大野 祐樹



大学では自分から進んで学ばなければいけないと，入学後すぐに実感しました。授業の進度が高校とは比較にならないほど速かったからです。数学や物理学など，高校で学習したことがある科目でも，授業についていくのが精いっぱいでした。初めて学ぶ電気電子工学の専門科目は，内容がほとんど理解できないものもありました。

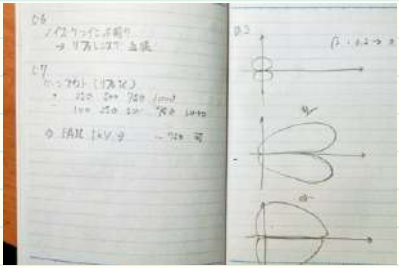
そこで，予習と復習を徹底しました。予習では，どの科目も教科書を読み，分からない言葉や内容を洗い出しておきました。その部分について，先生の説明を聞いて理解するという心構えで授業に臨むようにしたのです。復習では，ノートを見直すのはもちろん，知識を深めようと，関心を持った内容は図書館で文献を調べました。

さらに，研究室に先生を訪ね，質問しました。ただ疑問点を明らかにするためだけでなく，その知識が研究にどのように役立つか，社会をどのように豊かにするかについて理解するためです。どの先生も最先端の研究に踏み込み，熱心に説明してくださいました。

授業内容がしっかり理解できるようになると，私はもっと頻繁に図書館を利用するようになりました。授業で学んだことについて，さらに深く知りたいと思ったからです。授業内容に直結する本だけでなく，その本と同じ棚に置いてある別の本にも目を通し，関連知識を身に付けました。

２年次からは，授業内容を筆記するノートとは別に，Ｂ５判のメモ帳を用意し，自分が思いついたことを書いています。例えば，電子の動きを測定する授業で，先生が示したのとは別の測定方法がひらめけば，これをメモするのです。ノートには先生から学んだ事実，メモには私の発想を書くというように使い分けています。

４年次の卒業研究では，メモに書いた独自の方法をいろいろと試してみる予定です。「今までになかった研究成果を得られるかもしれない」という期待に，胸がふくらんでいます。



メモの一部。思い浮かんだことを書き留めておく。

※学年は取材時（2013 年度）のものです。

2 演習（ゼミナール）

》演習での学び方

演習は，「ゼミナール」とも呼ばれる授業の形態の一つです。**少人数の学生が特定のテーマについて自主的に研究し，発表や討論を行います**。講義は，多人数が収容できる教室で教員の話をどちらかと言えば一方的に聴くスタイルが主流ですが，演習は，学生がより積極的に授業に参加することが前提です。自らが調査・研究した特定のテーマについて発表したり，ほかの学生の研究発表を聴いたりして，互いの発表を基に討論します。それによって，さまざまな学問的刺激を受けることができるのです。

また，こうした活動を通して教員から親しく指導を受け，ほかの受講生とより深い交流ができるのも，演習の大きな特色です。発表の仕方や討議の方法，さらにはこれに付随する人間関係など，演習（ゼミナール）から学べることは数多くあります。ぜひ，積極的に参加してください。



演習の様子。

》プレゼンテーション

演習（ゼミナール）では，学生が**研究発表をする機会**が多くあります。最近のプレゼンテーションは，効率的に理解を得られるようパソコンのプレゼンテーションソフトウエアを使うことが多くなっています。無料でダウンロードできるソフトウエアもあり，マニュアル本も数多く出版されているので，使い方を学ぶことをお勧めします。

また，発表要旨とは別に，スライド画面をＡ４用紙１枚に６画面程度，順番に記載したものをプリントして配布資料にすると，より効果的な発表になります。


学生によるプレゼンテーションの様子。

最近は，学会*でも企業内でも，パソコンを活用した発表が増えています。演習でプレゼンテーションソフトウエアを使って研究発表した経験は，卒業後にどのような道に進んだとしても役に立つはずです。この使い方をマスターしましょう。

プレゼンテーションの際には，決められた時間内に発表することが大切です。事前に，友人に聴いてもらうなどしてリハーサルを行うとよいでしょう。

ディスカッション

ディスカッションは，教育方法の一つとして重要なものです。他の学生の考えを聴いて学ぶ，違う意見を合わせて一つにまとめる場面では，ディスカッションは優れた方法です。バズセッション*，パネル・ディスカッション*，ディベート*などの手法があります。他の学生の意見を尊重し，相手を誹謗（ひぼう）したり人格を傷つけたりしないことなどが基本的なルールであり，自らの意見を主張する際には，正しい論拠と論理が求められます。

ディスカッションをするには，事前の準備が必要となります。自分の意見が述べられないのは，話す能力が足りないからと思いがちですが，下調べや自分の中での考えがまとまっていないことが原因の場合があります。しっかり準備をして，自信をもってディスカションに臨めるようにしましょう。

学会
学術研究者の団体。また，その会合。

バズセッション
まず，参加者が少人数グループに分かれて自由に討議。そこで得られた結論をグループの代表者が発表し，さらに参加者全体としての討議を進めるといった，演習に用いられる手法の１つ。

パネル・ディスカッション
異なる意見をもった数人の討論者（パネラー）が聴衆の面前で一定の論題に関して討議し，その後，聴衆も討議に加わって，質疑応答や意見発表を行う座談式公開討論法。

ディベート
ある主題について，異なる立場に分かれて議論すること。

Message

ゼミの受講スタイル

学びの主役は“自分”

国際関係学部国際総合政策学科3年　関 美佳



将来は，日本と中国の架け橋になるような仕事に就きたいと考え，3年次には「現代の中国」について学べるゼミに入りました。1年間，学んで感じるのは，ゼミでは，学生一人ひとりが自分の意見を持ち，主体的に参加する姿勢が強く求められるということです。

前期は，講義形式の授業でしたが，先生の説明の後，必ず意見を求められました。初めのうち指名されないと発言できませんでしたが，「社会に出れば，より自分の意見が求められる」と先生から言われ，態度を改めました。積極的に発言すると，自分の考えに対して，先生や他のゼミ生から意見やアドバイスを受けられ，思考がさらに深まります。

後期は，学生一人ひとりが興味のある業界の新聞記事を切り抜き，そのテーマについて発表する授業内容でした。必ず質疑応答の時間があるため，自分の発表日以外も気が抜けません。事前に，他のゼミ生の発表テーマに関する新聞を読み，自分なりの意見を持ってから授業に臨むようにしました。自分の取り組み次第で，学びの面白さが変わると感じます。

自分たちの意見を外部に発表する機会もあります。文化祭では，「高度経済成長下の中国における大学生の就職難について」というテーマで研究発表を行いました。最初は，インターネットで情報収集していましたが，それだけでは説得力に欠けると思いました。そこで，ゼミの仲間と話し合い，中国に留学中のゼミ生3名に協力を仰ぎ，中国の大学生に対するアンケートを実施したのです。それらから，日本の新聞報道からはわからなかった，就職難の理由が見えてきました。

ゼミでの学びは，テーマに対して自分なりに仮説を立て，調査・分析を行って，結果を導き出します。その工程の全てにおいて，先生に指示されるのではなく，自分たちで考え，行動しなければいけません。苦労は多いものの，自分たちが主役となって，学びを形作る喜びを感じています。3年次に経験した失敗や課題を生かして，4年次の卒業研究は，より充実したものにしたいと考えています。



文化祭での発表の様子。

※学年は取材時（2013年度）のものです。

3 実験・実習・実技

≫ねらいと効果

講義や演習（ゼミナール）は，研究成果や研究の対象・手法を教員が論述し，特定の研究テーマについて教員の指導の下で発表・討論することが中心となる授業形態ですが，実験･実習･実技科目では，それ以上に，**学生自らの体験と行動を通して，学修の結果をより確実なものとする**ことが求められます。

実験・実習には，分析装置や観測機器の使い方に習熟するとともに，学生自身が分析データ・測定データを得ることにより，あらかじめ設定した仮説に対する解答を出すというねらいがあります。授業のねらいと到達目標に関する教員の説明や指示に十分に耳を傾け，細心の注意を払って取り組むようにしましょう。



実習の授業風景。



実験の授業風景。

≫予習とレポート

実験・実習・実技科目の授業を受ける際に最も重要なのは，あらかじめ，どのような課題について授業が行われるかを予習することです。

何が大切であるか，どういうことが危険であるか，何を修得するための実験・実習・実技であるかを事前に知っておくと，理解も早く，事故などを未然に防ぐことができます。

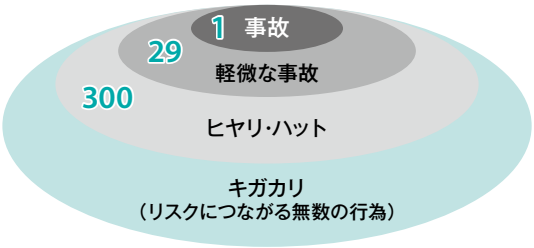
また，実験・実習・実技科目では，終了後，その日のうちにレポートにまとめることも重要です。新鮮な記憶があるうちに記録しておかないと，次第に忘れて，レポートや論文が書けなくなってしまうからです。

実験・実習・実技科目が好きになり，良い成果が得られるようにするコツは，**授業前の予習と，授業後にレポートをまとめる習慣を付ける**ことです。

》安全の確認

実験・実習・実技において絶対に忘れてならないのが，**安全の確保**です。「ハインリッヒ*の経験則」にあるように，１件の重大な事故や災害の背後には29件の比較的軽微な事故・災害があり，さらにその背景には300件のヒヤリ・ハット*が潜んでいるといわれています。つまり，重大な事故や災害を未然に防ぐには，一歩間違えば事故や災害の発生に結びつきかねないヒヤリ・ハット，あるいは，キガカリの段階で対処しておくことが重要です。

■ハインリッヒの経験則



事故・災害は決して不測の事態ではなく，配慮の不

ハインリッヒ
Herbert William Heinrich
(1886–1962年)
アメリカの数学者。損害保険会社の技術・調査部で安全技師を務めた。労働災害の発生確率を統計的に解析し，1929年に発表した論文で経験則「ハインリッヒの法則」を提唱した。

ヒヤリ・ハット
幸い事故には至らなかったものの，一瞬ヒヤリとしたりハッとしたりしたこと。

足から生じたと考えるべきなのです。

実験・実習・実技の授業では，指導教員やティーチング・アシスタント（ＴＡ）*，スチューデント・アシスタント（ＳＡ）*による注意事項の説明に十分に耳を傾け，常に細心の注意を払ってください。体調が十分でないことに起因する事故も起こり得るので，睡眠不足に留意し，体調管理に気を付けることは，事故を防ぐ観点から重要です。

安全面から，実験・実習・実技それぞれの授業内容に適した服装で受講してください。実験では白衣，場合によっては実験用保護メガネ・手袋等の着用が必要です。野外で実習を行う場合には，雨，日差し，虫よけなどの対策を万全に行い，調査にふさわしい靴の着用を心掛けましょう。また，事故を防ぐため，出水や雷など天候の急変に対する指導教員の指示には，迅速に従ってください。

》グループ行動

実験・実習・実技の授業は班単位で進められることが多く，自ら率先して参画するとともに，**グループの一員として役割を分担し，協力し合う**ことが重要です。実験器具・観測機材などの準備と片付けも積極的に行い，授業中には記録をこまめにとるようにしましょう。



河川の環境調査の実習風景。

ティーチング・アシスタント（TA）
科目担当教員の指示により，学部の実験・実習等の教育補助を行う業務の総称，もしくはその担い手である大学院学生。

スチューデント・アシスタント（SA）
コンピュータ科目や実験・実習科目等のほか，受講に際しての留学生への対応や，ハンディのある受講生等への学習補佐を行う学部学生。

Message

実験・実習の受講スタイル

実務に近い実習を求めて海外へ

医学部医学科6年　濱口 麻里奈



難病に苦しむ世界中の人々に，医療の手を差し伸べたい。私が医学部に進んだのは，そんな動機からです。

2年次から，実験・実習が始まりましたが，知識の“活用”を意識しました。例えば，薬理学の講義で学んだ薬品の効果について，ラットやカエルによる実験で期待通りの結果を出すという具合です。

5年次になると，臨床実習がスタートし，大学附属病院の各診療科で1，2週間ずつ，診察や手術の仕方を学びます。見学が基本ですが，先生の指導を受けながら，学生が患者を問診する機会もあります。症状から疾患と治療法がすぐに思い浮かばない時は，先生にアドバイスを受け，さらに，授業で配付された資料を読み返しました。資料は膨大な量ですが，私は疾患ごとに分類し，すぐに必要な知識を確認できるようにしてあります。元々は授業内容を効率よく復習するためにしていた対策でしたが，臨床実習でも役立ちました。

海外の病院で実習したかった私は，国の留学制度に応募し，5年次の春休みにイギリスの大学病院に短期留学しました。先生の指導の下，患者を診断する機会が日本での実習よりも多かったため，問診でどのようなことを聞き取る必要があるか，救急の処置として何をすべきかなど，より実務に近い体験を積むことができました。救急病棟での研修では，先生から指示を受ける前に採血や局所麻酔の準備をするなど，自分に何が求められているかを予測して行動する習慣がついたと思います。経験が自信にもつながりました。

ただ，大学病院では，他の病院から紹介された患者を診察することが多いため，病状についてある程度の見当はついています。全く未知の患者と向き合ってみたいと思い，留学期間終了後，自分でイギリスの別の病院を探し，精神神経科で研修を行いました。

6年次の現在は，医師国家試験に向けて勉強する日々。覚えるべきことが多いものの，辛いとは思いません。夢の実現に一歩ずつ近づいていると感じる，楽しい時間です。



イギリスの大学病院で実習した仲間たちと。

※学年は取材時（2013年度）のものです。

4 論文・レポート

》心構え

大学での学びにおいて，論文やレポートを書くことは必ず求められます。論文を書くという場合，卒業論文がその代表的なものですが，学部・学科によってその内容には違いがあります。書き方や文字数については，担当教員の指示に従うようにしましょう。

学問研究は，先人の研究成果（先行研究）の上に自身の学修・研究内容を上乗せするものであり，徹頭徹尾，先人の研究成果を学びを参照しない研究はありません。つまり，学術論文を書くためには，書こうとしている分野や課題についての先行研究を学ぶ必要があります。大学に大きな図書館が存在するのはそのためであるとも言えます。

レポートを書く場合，教員が課題名や書式を指示してくれるか，シラバスに記載があります。これらの指示に従って執筆しましょう。



レポートには，文献研究による報告，実験・調査結果の報告，アンケート・インタビュー調査の報告など多様な類型があります。学術論文と比較すれば，書くという作業の大きさは軽減されますが，これらを完成させるための緊張感は同じです。

文献研究は，論文と同じような手法を取ります。アンケートやインタビュー調査では，あらかじめアンケートする項目やインタビューする質問などを吟味し整理しておきましょう。自分が主張したいことを念頭において，これを調査によって検証し，論証しながら書き進めることが大切です。また，グラフや図表の使い方を習熟し，適宜レポートに挿入すれば，より見やすいレポートとなるでしょう。

》論文・レポートを書くための情報収集

論文・レポートを書くためには，書籍や論文，雑誌などの資料を効率的に検索できるよう，図書館での情報収集の仕方をマスターすることが大切です。インターネットが普及した現在では，学生自身のパソコンや携帯端末でも書籍や論文を検索し，読めるようになっています。大手書店の書籍検索機能を活用するのもよいでしょう。

また，パソコンに内蔵されている文書作成機能を十分使いこなせるよう，親しんでおくことが大切です。写真や図表の取り入れ方はもちろん，注釈や参考文献の挿入方法など学術論文の書き方もマスターしておくとよいでしょう。論文作成時の起承転結の付け方なども，理解しておくべきです。論文・レポートの書き方に関する本を熟読しておくことも重要です。

論文にせよレポートにせよ，書き方をマスターする王道はありません。指導を受けている教員にできるだ

けならって，日頃から書く訓練をしておきましょう。

》絶対にしてはいけない「無断引用」

論文やレポートは，自らの考えを書くものですが，先行研究を無視して書くことはできません。必要に応じて，他者の文章を「引用」することがありますが，出典を明らかにするなど，いくつかの最低限のルールがあります。ウェブ上の複数のページから文章をコピー＆ペーストし，レポートを仕上げるといったことは，ルールに則らないばかりか，そもそも自分の文章を書く力を成長させる上でもマイナスなので，絶対にしてはいけません。

》よい論文・レポートを書くためのコツ

論文・レポートを書くには，読書力が問われます。読書なくしては，よい論文やレポートを書くことはできません。必要だと思った図書は，精読することが大切です。あるいは，パソコンに感想文などを書き込みながら読むのも一つの方法です。自らの専門分野の周辺領域の論文なども，必要に応じて目を通しておくと良いでしょう。これらの書籍や論文の引用文献や参考文献を見れば，自分自身の学修に役立つ関連の文献を容易に見いだせるはずです。



COLUMN

学びをサポートする大学図書館

あなたにとって，大学図書館はどのようなところでしょうか。

授業のテキストや参考書を読んだり，本を借りたり，コピーをとったり，資料を取り寄せたりするところ，または，新聞や趣味の雑誌を読むところ，映画等の視聴覚資料を見るところ，課題をこなすために情報の手掛かりを得るところ，仲間とワイワイ意見を交換し学びを高めるところ，でしょうか。

大学図書館は，これらすべてに「ＹＥＳ！」と答えます。大学図書館は，学生の皆さんの知らないうちに，変貌しています。

「空間・場」としての図書館

今までの大学図書館は，静かな雰囲気の中で，主に学生が個別に学修する場を提供してきました。

しかし，これからの図書館は，可動式の机，椅子，ホワイトボード等を備えて，自由な議論や意見交換の場や，仲間とともに課題をこなす場も新たに提供していきます。

学生の皆さんは，他のグループや他の人の活動を見て，ヒントを得たり，さらに課題を深く掘り下げたり，意見交換を活発にしたりすることもあるでしょう。自分一人の学修では気付かなかったのに，他の人の意見を聴いて，気付くことがあるかもしれません。一緒に何かをすることは，人にとって欠かせない欲求です。

まるで洪水のようにあふれる情報が身の回りにある今，的確な情報にたどり着くためには，仲間の助けが必要です。

次世代の人に必要な力を定めたものに，「21世紀型スキル」があります。その中で，世界情勢や自然環境の刻々たる変化に対応するには，常に学び続けていく力や，多様な価値観を持つ人と議論して，起きている問題を特定し，協働で解決していくことが必要とされています。

大学図書館という空間・場を使って，授業が行われることもあります。使いたい資料は，すぐ手の届くところにあります。大学図書館は，皆さんの「知りたい，伝えたい」を実現するところです。

「情報資源」としての図書館

自由な議論の中で，気になることが出てきたら，紙の資料だけでなく，パソコンを使ってデータベースや電子資料を調べることもできます。

探している資料がどこにあるかを検索するには，ＯＰＡＣ（Online Public Access Catalog）を活用しましょう。

所属する学部図書館に所蔵のない資料は，他学部図書館や他大学図書館などから借りたり，コピーを取り寄せたりするほか，実際に閲覧に行くこともできます。手続きの方法は，カウンターに相談してください。



国際関係学部図書館ラーニングコモンズ。

図書館で使えるデータベースには，日本語のデータベースもあります。

これらのデータベースでは，新聞記事を探したり，言葉の意味を知るのに，複数の辞書を同時に調べたりすることもできます。

最近は，各種データベース，図書館のＯＰＡＣ，電子ジャーナルなど，どの資源を利用するかを気にせずに，情報を手にできます。調べたいと思う「言葉」をボックスに入力するだけで，情報が入手できる仕掛けが開発されているからです。日本大学でも，間もなくその仕掛けを使うことができるようになります。

大学図書館は，皆さんにとって，身近な情報の宝庫です。気軽に調べて，新しい仕掛けも，どんどん利用してみましょう。

検索したら，オリジナル資料にぜひ当たってみてください。大学図書館には，ベストセラーのほか，良書がそろっています。良い本は，人の心を豊かにし，人生を変えることもあります。

「人的資源」としての図書館

一人ひとりが学ぶことを意識し，学ぶ力をつけることが必要です。学ぶ力を身に付けるには，図書館で情報リテラシーを身に付けるのが，近道です。情報リテラシーとは，情報を主体的に使いこなす能力のことを言います。

この情報リテラシーについての知識やスキルをもっているのが，図書館員です。

図書館員は，学生の皆さんが授業の予習・復習をするために，あるいは課題に取り組む，興味あるテーマを調べるために，必要な情報を主体的に使いこなせるようサポートします。情報をうまく使いこなすには，ちょっとしたコツがあります。コツさえつかめば，関心が湧き，学修意欲が出てくるでしょう。もっと深く調べたくなり，いつの間にか，自ら主体的に調べることが楽しくなっているでしょう。

大学での学びや体験を実りあるものにするために，大学図書館を手段として使うとよいでしょう。調べ方がわからなければ，図書館のカウンターに気軽に声を掛けてくだい。いつでもサポートします。

（総合学術情報センター情報事務局学術情報課）

成績評価

1 成績評価と単位

》「成績評価」の意味

「成績評価」は，履修した科目の学修成果を一定の指標に基づき評価された結果を意味しています。各科目の**学修成果を「成績」として客観的に捉える**ことにより，これまでの取り組みを振り返り，卒業までの履修計画を立てる上で重要な参考になります。

また，教える側の教員は，授業をより効果的に展開するため，「成績評価」を通じて学生の授業に対する理解度や参加度などを把握しています。

大学も「成績評価」の結果などを総合的に分析し，教育の質向上に努めています。

なお，「成績評価」の方法や基準は，授業科目ごとに異なり，**シラバスに記載**されています。しっかりと把握しておきましょう。

》「単位」の意味

「単位」とは，大学における**学修量を測るために数値化した一定の基準**のことをいいます。大学の教育課程では，個々の授業科目ごとに設定された「単位」を積み重ねていきます。修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了し，学位*を授与されるのです。

学位
p.24「学位の授与」を参照。

2 必要な学修時間

》1単位の授業時間は？

授業科目の単位数は，大学設置基準*で，「**1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準**とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して」単位数を計算することと規定されています。

日本大学は，大学設置基準に基づき制定された「日本大学学則」により，授業科目の単位計算を次のとおり定めています。

種　別	1単位に要する授業時間
講義，演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験，実習，実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間（注1）の授業をもって1単位

（注1）芸術学部における個人指導による実技の授業については，15時間の授業をもって1単位とする。
※講義，演習，実験，実習または実技のうち2つ以上の方法により授業を行う場合については，その組み合わせに応じ，上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。
※医学部の授業科目の一部（専門教育科目，臨床実習）は，単位制によらず，時間制を採っている。

単位制は，上の表の単位時間を基礎として，授業科目の種別に応じて必要な時間数に基づく単位を定める制度です。授業科目を履修し，授業科目ごとに定められた試験等に合格すると，単位が認定されます。

》予習・復習も必須

授業科目の単位は，授業時間に加え，学生が行う予

大学設置基準
大学を設置し運営していくに当たり必要な最低の基準を定めた文部科学省令。

習・復習などの授業時間外学修によって構成されています。講義科目を例として説明すると，毎週１時間の授業を15週行って１単位としているため，大学設置基準で規定されている「45時間の学修を必要とする内容」を満たすには，１授業科目に対して２時間の授業時間外の学修が求められるわけです。

■講義の場合

授業時間１時間
＋
授業時間外の学修
（予習・復習など）２時間

×15週＝45時間の学修

〈例〉



×15週＝1単位

つまり，**授業時間に加え，予習・復習の時間も単位に含まれる**と考えられています。授業の理解を助けるために，レポートや課題などが課されることがありますが，この単位の持つ意味（単位の実質化）をよく理解し，真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても，履修した授業内容を自分のものにするために，予習・復習を習慣づけることが必要です。

なお，大学では，45分を「１時間」と計算しているため，90分間の１授業時間は「２時間」となります。例えば，２単位の講義科目の場合は，１授業時間（90分）の授業を15週行い，30時間確保していることから，当該授業科目の単位数として２単位が与えられる，というように考えます。

Message

日本大学における学修②

“自主独学”こそが大学での学び

生物資源科学部海洋生物資源科学科 専任講師　**間野 伸宏**



高校での学びは，教科書や授業の内容を理解することがゴールであったと思います。一方，大学では，講義や教科書から学べることはその分野の１％にも満たないでしょう。そのため，“自主独学”の取り組みが大切になります。講義内容を基に，自ら机に向かい，時には関係機関に出向き，多くの人と出会ってその真偽を自分で確かめるくらい能動的に取り組んで初めて，学んだ知識が役立ったり，利用できたりするようになるのです。

私の講義では，教科書の内容だけでなく，学会などで仕入れた最新の研究内容や私の研究室の大学院生が取り組んでいる研究活動などを織り交ぜています。知識を得るだけでなく，皆さんの好奇心をたきつけたいと考えるからです。ただ，大学では基礎から応用まで幅広い科目が開講されており，最初は興味がわかないものもあるかもしれません。その時は，まずは一つでいいので興味の持てる科目を見つけてください。学んでいくうちに，多様な分野とつながっているのが理解できるはずです。

私自身も生物を勉強するつもりで大学に入りましたが，生物の現象を深く理解する上で生化学が重要であることに気がつき，いわゆる化学系の講義もとるようになりました（入学時には考えもしなかったことです）。

また，私は養殖や水族館などを対象とした実学（実際の生活に役立つ学問）を専門としていることもあり，講義や実習において，多くの学内外の専門家に協力を得ています。人とのつながりの基本は，学生時代に培われました。サークル，インターンシップ，アルバイトなどにおける様々な経験や価値観を持った人たちとの関わりは，刺激的であり，知力や精神力が鍛えられます。前に進むための広い視野をもたらしてくれるでしょう。

近年，友人関係が希薄で，積極的に課外活動にも取り組もうとしない学生が増えてきているように感じます。自主的な学び，リアルな経験の積み重ねこそが，自らを成長させます。日本大学には日本全国から多くの仲間が集まっています。ぜひ，仲間とともに一歩踏み出し，自分を成長させてほしいと願っています。



授業の様子。

3 GPA 制度

≫GPAとは

日本大学では，厳格な成績評価，綿密な履修指導による卒業生の質の保証などを目的として，**ＧＰＡ（Grade Point Average）**制度を導入しています。ＧＰＡとは，「**成績評価基準**」（次ページ参照）に従い，授業ごとの成績評価にそれぞれ定められた係数（Grade Point）を付与して，１単位当たりの平均値（Grade Point Average）を算出する成績評価方法です。

次ページの「ＧＰＡ計算式」に示されているとおり，ＧＰＡは，評価された成績とその科目の単位数が関係づけられて算出されるので，単位制の概念に照らして考えても，履修する授業科目によって求められている“学修の重み”が異なっていることが分かります。

国際的に通用性があるとされるＧＰＡは，海外留学などの際に大学での学びを示す指標となることもあります。

≫履修登録→成績→振り返り

自分の学修効果を把握して，主体的に履修計画を立てることが大切です。学期末や年度初めに配布される「成績表」や「成績発表システム」に示されたＧＰＡを検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返り，次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。**いったん履修登録した科目は，履修中止をしない限りＧＰＡの対象となる**ので，自らが責任を持って履修登録することが求められます。

このような学修プロセスを通じて，「自主創造」型人材の気風を養うことが重要です。

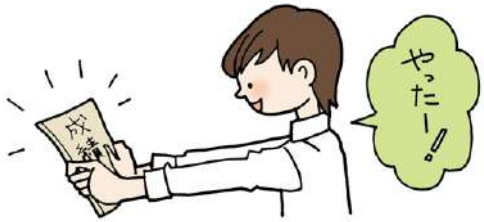
■成績評価基準

		素点	評価	係数	内容	GPA
判定	合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	対象
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	
無判定		—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	
		—	P	—	履修登録後，所定の履修中止手続きを取ったもの	対象外
		—	N	—	留学や編入学などにより，修得単位として認定になったもの	

■GPA計算式

$$\frac{\left(\begin{array}{c}4\times S\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}3\times A\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}2\times B\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}1\times C\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)}{\text{総履修単位数（S+A+B+C+D+E）}}$$

※分母には，P（履修中止科目）およびN（認定科目）は含まず，ＧＰＡには算入しない。
※ＧＰＡ算出の対象科目は，学科の課程修了に係る授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）である。
※「成績証明書」では，合格した授業科目の成績（S，A，B，C）および認定科目（N）のみを表示する。従って，不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については，「成績証明書」に表示されない。
※D評価またはE評価となった科目を再履修しない場合は，ＧＰＡ算出の際，総履修単位数として分母にそのまま残るので，注意が必要。なお，D評価またはE評価となった科目を再履修した場合，累積のＧＰＡ算出の際には，最後の履修による成績および単位数のみを算入する。
※ＧＰＡ制度の詳細は，学部等で配布される『学部要覧』などを参照のこと。



COLUMN

GPA制度と単位の実質化

ＧＰＡの計算は，成績評価とその修得単位数が関係しています。個々の授業科目の単位は，学部等のカリキュラム・ポリシーに基づき必要な学修時間等を勘案して設定されており，いわゆる“**学修の重み**”を表しています。また，ＧＰＡの値を求める際，分母に不合格となった科目（Ｄ評価）だけでなく履修登録をしたものの成績を示さなかった科目（Ｅ評価）の単位数も含むため，**しっかりとした履修計画**が必要であることが分かります。

例えば，下表に掲げた４人の学生の履修状況を見てください。４人の履修状況を比較すると，一見，ＣやＤの評価を得ていないＸさんの成績（Ｂ・Ａ・Ａ）が良いように見えますが，ＧＰＡの値で比較すると，４人の学生のうち最も優れているのは，Ｗさん（2.75）です。また，２科目でＳ評価を得ているにもかかわらず，４単位の１科目を途中で受講しなくなってしまったためにＥ評価となり，最も低いＧＰＡの値となったＺさん（2.00）のようなケースもあります。

つまり，ＧＰＡは，授業科目によって異なる単位数が成績の重みづけとして反映された評価であること，また，履修登録をしたものの途中で受けなくなったり（所定の手続きにより履修中止した科目は除く），不合格になったりした科目も含まれた評価であることを認識しておく必要があります。

ＧＰＡ制度では，計画的な履修と着実な学修が求められます。ＧＰＡの値は，大学生としての皆さんの行動特性を表すものでもあるのです。

（学務部教育推進課）

	○○学［4単位］	○○論［2単位］	○○語Ⅰ［2単位］	GPA
Wさん	S	C	B	$\frac{16+2+4}{8}$
	4×4単位＝16	1×2単位＝2	2×2単位＝4	2.75
Xさん	B	A	A	$\frac{8+6+6}{8}$
	2×4単位＝8	3×2単位＝6	3×2単位＝6	2.50
Yさん	A	D	S	$\frac{12+0+8}{8}$
	3×4単位＝12	0×2単位＝0	4×2単位＝8	2.50
Zさん	E	S	S	$\frac{0+8+8}{8}$
	0×4単位＝0	4×2単位＝8	4×2単位＝8	2.00

※評価ごとの係数は，Ｓ＝4，Ａ＝3，Ｂ＝2，Ｃ＝1，Ｄ＝0，Ｅ＝0

参考／半田智久2011，『成績評価の厳正化とＧＰＡ活用の深化』地域科学研究会

4 授業評価

》授業評価の趣旨

日本大学では，「**学生による授業評価**」が，大学全体で組織的に行う教育の改革・改善活動の一環として行われています。学生の皆さんは，授業ごとに実施される授業改善アンケート調査に参加することが大切です。大学は，調査の結果を分析して，授業の問題点・反省すべき点を洗い出し，授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。

さらに，「学生による授業評価」では「きちんと出席したか」など，受講生自身の授業に対する態度も合わせて問うことにしています。

》学生による授業評価の意味

「学生による授業評価」のアンケートには，決められた項目だけではなく，授業の進め方や教員の授業方法について自由に記述する欄も設けられています。大学では，学生の皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることなどに関する記述内容を，アンケート結果とともに教員に届けています。教員は，これを基に，学生の学修効果の向上に向けて，授業の改革・改善を図ります。

つまり，学生の皆さんの声によって，授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく，そこに**学生の意見が反映され，授業の改革・改善が行われていく**わけです。この点に「学生による授業評価」の意味があるのです。

快適な学修環境のために

1 キャンパス内マナー

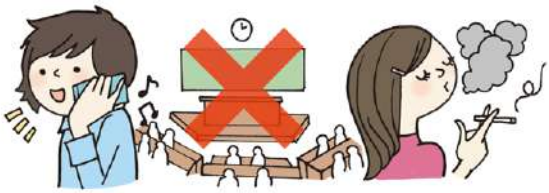
》学修マナーを守ろう

学生にとって，大学は学びの場として楽しくありたいものです。楽しいキャンパスライフを有意義に過ごすために，最低限のルールは守らなければいけません。

授業は大学の中核となる活動であり，私語は厳禁です。心無い私語は，場合によっては人権侵害になりかねません。静かに授業に取り組んでいる学生を妨害することは，学生の学習権の侵害になるからです。

また，正当な理由なく授業に遅刻することも，担当教員や他の学生に迷惑をかけることになります。近年，大きな問題となっているのは携帯端末に関するマナーです。教室での携帯端末の使用や充電はマナー違反なので，絶対にやめてください。

キャンパス内の決められた場所での飲食・喫煙なども当然のルールです。学生をはじめとする大学人全員が楽しく過ごせるキャンパスは，まさに学生の皆さんが創り出すものです。



2 人権侵害

≫人権侵害のない学修環境維持のために

日本大学では,「**人権侵害防止ガイドライン**」や「**セクシュアル・ハラスメント*防止に関する指針**」などを定め，基本的人権を侵害するような差別的取り扱いにより，個人の尊厳を不当に傷つける行為を禁じています。人権は難しいものではなく，誰でも心で理解し，感じることのできるものです。人権について正しく理解し，一人ひとりの人権を尊重する意識と行動により，人権侵害のない快適な環境を保っていきましょう。

主な人権侵害には，次のようなものがあります。

- 性・国籍・民族・人種・出身地・信条・性的指向・身体・健康などに関する差別
- セクシュアル・ハラスメント
- アカデミック・ハラスメント*
- アルコール・ハラスメント*
- インターネットを利用した誹謗・中傷
- ストーカー行為，デートＤＶ*　等

≫人権侵害を「しない」「させない」ために

- 誤った知識や偏見，差別をなくし，互いの人権・人格を尊重することが重要です。
- 相手が拒否し，嫌がっていることが分かった場合には，同じ言動を繰り返さないようにします。拒否されないことを同意や合意と勘違いしてはいけません。
- 問題提起する人をトラブルメーカーとみなしたり，人権侵害を当事者間の問題として無視したりせず，声をかけて相談に乗りましょう。「見て見ぬふり」は，人権侵害への加担とされる場合があります。

セクシュアル・ハラスメント
相手の意に反する性的言動により，相手に不快感や不利益を与え，学修環境を困難にさせること。略して「セクハラ」ともいう。

アカデミック・ハラスメント
教育・研究上の優越的な地位や権限を利用して行われる不適切で不当な言動・指導・待遇により，相手の学修環境を困難にさせること。

アルコール・ハラスメント
飲酒やイッキ飲みの強要，意図的な酔いつぶし，飲めない人への配慮を欠くこと，酔った上での迷惑行為（暴言・暴力，ひんしゅく行為，セクハラ等）。

デートDV
交際相手を怖がらせたり，傷つけたりして，自分の思いどおりに動かそうとする態度や行動。

≫人権侵害の被害に遭ったら

黙っていたり，無視したりしていても状況は改善されません。かえって行為者に，その言動を容認していると誤解され，エスカレートする場合があります。不快だという気持ちを，相手に対してはっきり伝えることが大切です。**一人で悩まず，信頼できる人や人権相談オフィス*に相談**してください。

≫人権相談オフィス

人権相談オフィスでは，学生からの相談を受け付け，学内外の関係分野の専門家（弁護士･医師･臨床心理士･看護師・保健師）である人権アドバイザーが，面談を通して問題解決のプロセスを策定します。相談したことによって不利益を被ることはありません。相談者の意思を最大限尊重し，プライバシーを守ります。

詳しくは，「人権侵害防止リーフレット」や「人権侵害防止・解決ガイド*」のウェブページをご覧ください。



人権侵害防止リーフレット

人権相談オフィスの連絡先
TEL. 03-3293-1781
平　日 10：00 ～ 18：00
土曜日 10：00 ～ 12：00

「人権侵害防止・解決ガイド」のURL
http://www.nihon-u.ac.jp/hras/

3 社会的問題

≫社会的問題を起こさないために

学生生活を楽しく安全に過ごすには，社会的なルールや大学の規則などを守ることが大切です。特に未成年の飲酒や薬物などへの誘惑には絶対に乗ってはいけません。

近年，SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などへの不用意な投稿が社会的問題になっています。SNS は，便利なコミュニケーションのツールです。人々を結びつける機能を持ち，多くの企業や大学などでも利用されています。

しかし，投稿のルールや規則が曖昧で，情報の真偽が見えにくいものもあります。特に匿名のＳＮＳでは傍若無人の振る舞いが多く，動画サイトへの投稿なども問題視されているとおりです。

SNS を使って自分の意見を表明し，書き込みをすることは，意義がないわけではありません。しかし，その書き込みが見知らぬ人々を傷つけることがあります。ネットの向こう側にいる人を攻撃したり，不愉快にしたり，傷つけたり，人権侵害になることも起こり得ます。同時に，自分自身をこれらから守ることにも細心の注意を払う必要があります。一人の大人として，自分自身に責任を持ち，しっかりとしたルールを確立しておくことが望まれます。



企画・編集

全学ＦＤ委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

リーダー	森島　済（文理学部教授）
メンバー	吉野　篤（法学部教授）
	藤田之彦（医学部教授）
	金山喜一（生物資源科学部教授）
	伴野和夫（薬学部教授）
	関根二三夫（通信教育部教授）
	並木洋明（学務部教育推進課長）
アシスタント	大嶽龍一（学務部教育推進課課長補佐）
	内田　修（学務部教育推進課主任）

表紙イラスト

芸術学部デザイン学科２年　小島あかり



●コンセプト

世界へ羽ばたき，活躍する日本大学の皆さんをイメージしています。地球を中央に置き，それぞれの学部のシンボルとなるマークを，これからさらに大きく広がっていく日本大学のつながりの輪となるように並べました。

このガイドブックは，本文などに記載した方々をはじめ，多くの方々や関係部署の御協力により作成されています。この場をお借りして，感謝申し上げます。

※本ガイドブックに記載した役職，資格，学年等については，平成２６（2014）年１月現在のものです。

『日本大学ＦＤガイドブック』に関する新たなアイディアや御意見などがありましたら，学務部教育推進課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

日本大学ＦＤガイドブック

―“自主創造”のための Learning Guide ―

発行日　平成２６（2014）年４月１日　第３版

発行者　日本大学ＦＤ推進センター

センター長　牧村正治

〒102-8275　東京都千代田区九段南４-８-24

電話：03-5275-8314　FAX：03-5275-8315

e-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

所管部署：日本大学 本部 学務部教育推進課

本書に掲載した文章，写真，イラスト，図版等の無断転載・複製を禁じます。
Copyright ©Nihon University 2014 All Rights Reserved.



日本大学FD推進センター